

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	北海道建築士会 札幌支部
チーム名	青年委員会
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年委員会メンバーでの作成

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
＜建築の終活＞建物に“いい最期”を考える
事業内容
【趣旨】 近年、持続可能性やライフサイクルコストに対する関心は高まっているものの、「建物の終わり」に向き合う機会があまり無いような気がします。若い建築士ほど、建てること＝設計のゴールと捉えてしまいがちで、解体や用途変更といった終活を意識する機会は少ないのではないのでしょうか？この企画では、建物の最期をどう迎えるか、またそれを設計の時点からどう考えるべきかをテーマに講演やディスカッション、事例紹介を通して理解を深めるきっかけとなると思います。 【事業例】 ●終活建築 座談会の開催(オンライン・全国対応可) 解体設計の現場経験者や、用途変更・まちづくりの専門家を招き、事例や考え方を紹介。どのような場面で終わらせる判断をするのか、どんな準備が必要かを学ぶ機会とする。終了後は参加者同士でディスカッションを行い、考えを整理・共有することで、実務に活かせる視点や発想につなげる。 ●「建築の終活」事例展 成功・失敗事例をパネルや写真で紹介し、建物の最期をどうデザインしたのかを可視化することで今後の設計や計画に役立つヒントが見つかるかも。 ●まちの終活ツアー 実際に“終活”フェーズにある建物(解体予定・再活用検討中の施設など)を巡るまち歩き／バスツアー。現地を見学しながら、参加者同士で「再活用できるとしたら？」などの視点で意見交換を行う。現場のリアルな課題や空気感を感じることで机上の設計だけでは得られない学びや気づきを得る機会になる。 【まとめ】 ・解体・更新・転用などの視点を通して、設計の幅や意識を広げるきっかけに。 ・地域に左右されず、全国どこでも同様に考えるべき課題。 ・若手建築士が「未来の建築のあり方」を自分なりに考えるチャンスにも。
想定予算
¥375,000

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	北海道建築士会 札幌支部
チーム名	青年委員会
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年委員会メンバーでの作成

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
＜建築の終活＞建物に“いい最期”を考える
事業内容
【趣旨】 建築士の設計業務は「建てること」が中心になりがちですが、建物には「終わり」もあります。その終わり方にどう向き合うかは、設計者の倫理や地域への責任にも関わる重要な視点です。 本企画では、建物の終焉を単なる老朽化や解体としてでなく、「人の最期」とも重ねながら捉え、そこから逆算して「どう建てるか」「どう使い続けるか」を考える機会とします。若手にとっても業務では得られない視点に触れ、建築の本質を再認識できるような内容を目指します。 【事業例】 ●終活建築トーク&ディスカッション 建物の終わりを見据えて設計・再生を行ってきた専門家(例:マンションの管理・再生に携わる実務家など)をゲストに招き、実際の現場経験を共有。その後、参加者自身で「建物の終わり」と始まりをどう結びつけるか」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める場とします。 ●建築終活の“哲学”ワークショップ 「建物と人の終わりの共通点は?」「建築の“死”とは?」といった問いを軸に思考を深め、設計手法やプラン寿命の考え方などを整理。年1回開催で継続し、「建物終活の設計手法(設計段階での終末想定、プラン寿命の考え方)」のマニュアル化・蓄積を目指す。 ●全国展開・共有可能なテンプレートづくり ツアーや展示・ワークショップの記録をフォーマット化し、他県の建築士会でも同様の企画を開催できるようにテンプレートを整備。テーマの普遍性を活かして、全国に水平展開できる事業を目指します。 【まとめ】 ・建物の終わり方から設計の在り方を問い直す、新しい設計発想の育成 ・継続性・全国展開性が高く、他支部との連携やシリーズ化も可能 ・若手にとっては哲学的で実務と離れた刺激があり、建築士会にいる意味を実感しやすい
想定予算
¥275,000

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	北海道建築士会 札幌支部
チーム名	青年委員会
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年委員会メンバーでの作成

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
＜空き家の終活＞～まちと建物を“つなぎ直す”デザインを考える～
事業内容
【趣旨】 空き家の増加は全国的な社会課題であり、景観や安全性、地域資源の未活用といった問題を引き起こしています。建築士には、こうした空き家を「まちに新たな価値をもたらす場所」として捉える視点が求められます。本事業では、空き家をきっかけにまちづくりと建築の関わりを考え、若手建築士が地域との関わりや建築の役割を再認識する機会とします。 【事業例】 ●空き家×まちトークセッション 空き家の活用や再生に関わっている建築士やまちづくりの実践者を招き、空き家の現状や課題、地域と関わりながらどのように活用してきたかなど、実際の事例を紹介してもらいます。空き家が増えていく背景を理解し、建築士としてできる関わり方を考えるきっかけにします。 ●空き家・未来活用ワークショップ 地域の空き家や架空の物件を題材に、「この空き家を自分ならどう使うか？」をテーマにグループでアイデアを出し合います。子育て世代の支援拠点や交流スペースなど、地域のニーズも想定しながら活用方法を考えることで、設計以外の視点や企画力を養います。 ●空き家ラボ:使われなかった建物の記録展 活用されないまま解体された空き家について、その写真や間取り、エピソードなどを集めて展示します。「なぜ使われなかったのか」「どこに活かせる余地があったのか」などを振り返り、これからの空き家活用に活かすヒントを見つけるきっかけにします。 【まとめ】 ・「終活＝終わらせる」だけでなく、「まちとつなぎ直す」プロセスを重視 ・建物単体ではなく“まちとの関係性”に注目した建築士の新たな実践機会 ・全国展開可能、空き家という普遍的課題を切り口にして継続的事業に展開可能
想定予算
¥230,000

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	北海道建築士会 札幌支部
チーム名	青年委員会
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年委員会メンバーでの作成

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
＜全国スモールプロジェクトコンペ＞～建築士の“構想力”をつなぎ、かたちにする～
事業内容
【趣旨】 建築士としての原点である「自分の考えがかたちになる」喜びを再確認しながら、全国の若手建築士が提案力や構想力を発揮できる場を創出します。本事業では、建築士会連合会が小規模建築物（例：公園の休憩所、地域の集会小屋など）に関する共通テーマを提示し、各県単位で構想を募集。全国大会にて発表・審査を行い、最優秀案を実際に建設するという“実現型”のコンペを実施します。 提案が形になる事で参加者のモチベーションが高まり、建築士会が地域や社会に対して発信力を持つ象徴的な建築物にもなり得ます。さらに、非実現型の都市提案部門も併設することで、幅広い職域の建築士が関われる企画とします。 【事業例】 ●スモールスケール建築コンペ（実現型） 連合会が共通テーマを設定（例：「人と人をつなぐ休憩所」など）し、各都道府県の建築士会がチームで提案をまとめ、全国大会で発表。最優秀作品は連合会が主体となって実施設計・建設まで進め、建築士会を象徴する小建築として整備される。建設費はクラウドファンディングや会内部予算から調達を検討。 ●都市提案プレゼン（非実現型） 現実の都市課題を題材に、各県で若手建築士が構想を練り、提案書や模型、パネルを作成して発表。発表の場では、他支部の提案を共有・評価し合い、全国のまちづくりアイデアを持ち寄る機会とする。優秀提案は表彰・公開。実現はされないが、業務につながる思考訓練や政策提案の訓練にもなる。 【まとめ】 ・実現型：実際に建てることで提案が“かたちになる”達成感が得られ、モチベーション向上と建築士会の認知度アップが期待できる。 ・非実現型：幅広い職域・テーマで取り組みやすく、日常業務に役立つ構想力・プレゼン力を育成できる ・各支部間の交流・連携が促進され、若手同士のつながりが強化される
想定予算
¥5,300,000

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	長野県建築士会 上伊那支部
チーム名	りんごと鹿肉
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	地域材等を活用した工作教室・設計に関するワークショップ等の運営を補助する。専門知識の情報提供。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名 公立学校をともにつくる～住民参加型学校づくりプロジェクト～	
事業内容 統廃合される公立学校の流れに対して、地域住民の声を学校再編に届ける仕組みづくり	
【概要】毎年全国で450校の公立学校が閉校及び統廃合されている。廃校利用や校舎新築に向けて地域の青年女性委員会が地域住民と連携し、想いに寄り添うファシリテーションを行ったり、建設工事に際してこどもを含めた住民が参加できるワークショップの実施等を行ったり、地域の学校の再編について住民参画の機運を高めることを目指す。 【取り組み内容⇒実践モデル】長野県上伊那郡中川村；学校をともにつくる会の伴走支援】中川村では現在R13年に義務教育校をつくる計画が進行中。下記の内容を村の有志団体「学校をともにつくる会」が同村教育委員会に提案しており、この団体を支援しながら全国の学校再編の地域連携のモデルを模索する。	
地元の山の木を皆で伐採 地域材の活用のみならず土・藁・茅・蜜蝋・柿渋などなど地域資源も活用。 	子どもの声と共に設計 専門家がサポートしながら、建築設計の魅力を体験。 
建築ワークショップ 穴掘り・釘打ち・壁塗りなど。みんなで楽しく汗をかき、地域を盛り上げる。 	↓ ↓ みんなで作る 「みんなの学校」
【青年・女性委員会へのメリット】当事者意識をもった若手建築士にとって、交流と学びの機会となる。自身の知見を活かして関与することで、より実践的な地域支援が実現する。公共建築のあり方をボトムアップで提案することにつながり、地域のソーシャルデザインに寄与できる。※文部科学省主催「みんなの廃校プロジェクト」や「CO-SHA Platform」と連携し広がりを持つ提案へと発展する可能性もある。	
みんなの廃校プロジェクト 	CO-SHA Platform 
学校をともにつくる会 	
想定予算／資材購入費・ワークショップ費用・デザイン費等の実費経費として100万円	

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	愛知建築士会
チーム名	学生部会
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	まずは学業が優先であるため、負担にならないような構成に。 短期でも長期でもできる企画だと膨らみが出てくる。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
建物研究 深掘りしてみないと
事業内容
主に県内や隣県の建物について、見に行きたい、知りたい、興味がある、気になる、など建物を深掘りしていく。 ・特別準会員（学生会員）による活動の場として学生部会があります。発足して2年程でもあり、まだまだ何を活動してみればよいのか手探り状態です。学生会員は、建築士を目指す方、建築に興味のある方が入会しています。建築を勉強したい、建築が好きな方です。 ・毎月行われている学生部会定例会にて意見を出し合えるツールとして活用し参加意識を上げる。 ・自分が見に行きたい、知りたい、興味がある、気になるなど意見を出し合い建物を深掘り。 ・1人で調べては時間のかかることを会員同士で調べることで、1人では理解し得なかった建物、建築の素晴らしいところを共有します。 ・学生と実務者が視点を共有することで、建築のことキャリアのことなどを考えるきっかけになる。 ・建物研究したことは、発表する場を設けたり、一枚のフライヤーにまとめたりなど報告、記録として残していく。 ・意見を出すことは得意ではないが、写真を撮ることが好き、文章を書くことが好き、発表の構成を考えるなど関わり代を多くする。 ・報告、記録としたものは、新入会員への活動報告、配布物として活用していく。 ・5年毎に小冊子にしてまとめ、発表会、OB・OG会を行う。卒業して建築業界から離れたとしてもまた、建築業界に戻ってくるきっかけになるかもしれない。 ・新たな会員、新たなアイディアなどの深掘りになると期待しています。
想定予算
1物件:手土産、資料印刷で¥3,000~5,000- 小冊子:¥30,000-(300~500部)

NO.7

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	(一社)福井県建築士会
チーム名	青年部会オリエンテーション B チーム
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	・青年部会会員でグループでの話し合いのとりまとめのサポートをしました。 ・今回の応募資料作成お手伝い。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名 ①「会員の自宅改修(新築)プランニング企画」	②「会員同士の職場体験」
事業内容	
①「会員の自宅改修プランニング」 ・会員の中に自宅を改修したい方や新築を検討しているなどの話の中で、建築士会のコミュニティの中でプランニングやコンペさらには工事サポートをやってもらえると、自社や一人で考えるより新たな発見や気づきにもつながり互いに勉強もしあえるなどのメリットがあると考えました。工事中には見学会や完成後にはそこに集まり施工中の話なども聞ける完成内覧会も開催。さらにせっかく集まるので BBQ など開き交流も持てるとより良いと考えました。 会員にどれほどこのような方がいるかは疑問ですが実際にアドバイスは欲しい方なども潜在的にはニーズはあると考えます。 この企画事業自体は会員の自宅に限らず、地域の空き家活用にも同じような手法がとれ、今後の事業展開もしやすいと考えています。 またこんな意見も出ました。→改修時に断熱材の代わりに、いらなくなった衣類や繊維生地を壁に入れて活用しても良いのでは。 環境にも配慮できより社会貢献にも繋がるととても良い意見でした。建築士会の普段の事業や活動ではここまで実践的な事柄に着目した活動は少なく、自分たちで考えものづくりしていくことで参加する動機付けにも繋がり、事業が自分ごととしてとらえられるので参加したいと思える活動になるのではないかと考えました。 ②「会員同士の職場体験」 ・普段建築士会で会う人たちの仕事内容って案外詳しく知らないよね！ と言った意見からこの企画が発案されました。学生さんのインターンみたいな形で会員同士の職場見学や現場を見たりすることでお互いを良く知り、また日々の自分自身の仕事にも学びになると考えました。お互いがよく知ることから仕事にもつながり、コミュニケーションも図ることができ士会活動にも参加しやすくなる。とても良い企画だと考えます。	
想定予算	
① ≒10 万(内容により変動)② ≒3 万程度(交通費程度 受け入れ先の準備費など)	

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	京都府建築士会青年部会
チーム名	セイネンブカイはタノシイ！
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	コミュニティのアプリ選定、助言、第1回打ち合わせ時の同席（原部長・秋山相談役）

※1：共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2：建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名	アプリを活用した情報提供、コミュニティ活性化事業
事業内容	スマホや PC アプリを活用した、建築士会情報コミュニティの場所を提供します。（アプリ名：discord） ■背景 建築士会加入率の向上を目指すため、建築士会員限定のコンテンツが必要と考えます。 会員が時間やお金をかけずに、いつでもどこでも建築士会だけの情報を入手できます。 ■内容 ・自己紹介ページ・・・まずはお互いをしる場として、簡単な自己紹介をいれてもらいます。 ・設計相談・・・日々の業務で困ったことを投稿、分かる人が回答する場所。 ・おススメの建材・・・建材・設備のシェア ・現場トラブル共有・・・現場経験を共有する場所 ・イベント・・・イベント、セミナー、懇親会情報 ・作品紹介・・・完成物件の紹介など ・有益情報・・・建築法令の改定などの情報共有。 ・自社広告・・・自社のサービスをアピール。 ・Q&A・・・建築士会のことなど気軽に相談。 ・インフォメーション・・・各種案内 このアプリから各種交流会、セミナー等への誘導も行っていきます。 ■懸念点 初回ログインまでの設定が出来ない、 アプリの操作が慣れないなどで、放置される方が出てくると思われます。 →適宜メルマガ等でこんな投稿があります！などを案内するのが良いかと思います。 ■新しい建築士会のカタチとして、すぐに始めることができ、浸透していくことで無くてはならないツールに発展していくと思います。
想定予算	¥0 （初回ログイン完了+1 投稿でクオカードが当たる！などの施策があると参加率アップするかと思います。）

↓コミュニティアプリのイメージ



新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	大阪府建築士会
チーム名	「架空敷地における設計コンペ」(大阪府青年女性委員会)
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名「架空敷地における設計コンペ」
事業内容 建築士に架空であるが同条件の下でアイデア募集設計コンペを行う
近年の建築士試験の法改正により新規(新入)会員の平均年齢が下がると思われるが、年齢が若い実務経験が少ないのでスキルアップの場としての設計コンペを行う ・全国共通での架空敷地、建物用途、予算等を架空であるが決める ・都道府県毎で一つのプランニングを行う 実務経験が短い方々がその敷地に対して基本計画プランニングを行う 経験が長い方々が予算繰りや詳細部に対しての助言を行う ・都道府県毎の持ち寄った設計プランでの優秀賞を決め、スキルアップを図る (0次予選:支部優秀賞) →1次予選:都道府県優秀賞 計 47 案 →2次予選:ブロック優秀賞 計 7 案 →最終:全国優秀賞 1 案 ・各都道府県毎での概算見積の差異、及び現在の市場価格の確認を図れる
想定予算 30 万 (連合会賞 10 万、広告費 10 万、ブロック賞 10 万)

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	大阪府建築士会
チーム名	設備 BIM コンペ(大阪府青年女性委員会)
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年・女性委員会議で議論を行いました。 各建築士会対抗コンペなどのアイデアを頂きました。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名 設備 BIM コンペ
事業内容 建築設備を含めた BIM モデルに対して各建築士会でコンペを行う
目的 建築と設備の統合設計力を育成 実務に近い BIM 活用体験を提供 設備設計者との協働の重要性を理解 課題タイトル(例)「地域資源を活かした未来の公共空間の提案」～建築・設備が融合した持続可能な設計～ 課題概要 参加者は、指定された地域特性を持つ敷地に対して、地域住民が利用する公共施設(例:コミュニティセンター、図書館、交流拠点など)BIM を用いて設計する。建築設計に加え、空調・電気・給排水などの設備計画も含めた統合的な提案を求める。 コンペ課題への組み込み方法 1. 課題に設備条件を明記 空調方式(例:全館空調、自然換気併用) 給排水計画(例:雨水利用) 電気設備(例:太陽光発電、蓄電池、照明計画) 2. 提出物に MEP モデルを含める BIM モデル内に設備要素(ダクト、配管、照明器具など)を含む IFC 形式での提出を推奨 設備ゾーンや機械室の配置も評価対象に 3. 評価項目に設備設計の工夫を追加 設備の合理性・省エネ性 建築との調和(天井高さ、配管スペースなど) メンテナンス性・将来対応力 使用ソフト例(設備 BIM 対応) 空調・電気 Revit MEP 建築と設備の統合設計が可能 配管 Rebro 日本の設備設計に強い 参加者の構成案 建築士単独でも参加可能 設備設計者とのチーム参加も歓迎 学生チーム(建築+設備)も対象に 想定予算 講演料3万円 会場費5万円 広報・事務手数料3万円

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	大阪府建築士会
チーム名	「建築家 安藤忠雄 に学ぶ」講演会(大阪府青年女性委員会)
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年・女性委員会議で議論を行いました。 「建築家 安藤忠雄 に学ぶ」講演会のアイデアを頂きました。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名「建築家 安藤忠雄 に学ぶ」講演会
事業内容「建築家 安藤忠雄 に学ぶ」自分だけではなかなか難しい有名建築家の講演会を企画 建築士会主催の思想継承講演会(独自開催) - タイトル案:「建築家 安藤忠雄 に学ぶ ～未来の建築士へ贈る言葉～」 - 登壇者:安藤忠雄氏(特別講演)+若手建築士代表(応答セッション) - 構成: - 第1部:安藤氏による講演(建築人生・思想・社会へのメッセージ) ボクシング:闘う哲学の原点 - 高校時代にプロボクサーとしてデビュー(リングネームは「グレート安藤」) - 「人生は勝つか負けるか。ならば闘って、自分の信じる道を貫け」 コンクリート:素材との対話と思想 - 温度・湿度・職人技に左右される繊細な素材に、毎回“勝負”を挑む - 第2部:若手建築士による「私の建築」プレゼン - 「闘う建築家」思想継承ワークショップ 若手建築士が「自分の勝負する建築」を語る場を設ける - 連動企画:思想を形にする模型展示+BIM モデル 安藤氏の代表作をテーマに、若手が自らの設計哲学を表現 - 第3部:対話セッション(世代を超えた建築の継承) :建築家として残すべき思想 - 「建築は社会への問いかけ。常識への挑戦」 → 住吉の長屋や光の教会など、空間を通じて人間の感性を揺さぶる - 「若者よ、自由と勇気を持て。尖ったことをやってみろ」 → 若手へのメッセージとして、挑戦する姿勢を遺す
想定予算 講演料3万円 会場費5万円 広報・事務手数料3万円

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	大阪府建築士会
チーム名	「知的サロンシリーズ」講演会(大阪府青年女性委員会)
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年・女性委員会議で議論を行いました。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
ゲーム理論や AI、社会的選択理論などを建築の文脈に応用した知的サロン
事業内容
戦略的建築士＝意思決定を科学する設計者としてのスキルを磨くため、ゲーム理論や AI、社会的選択理論などを建築の文脈に応用した知的サロンシリーズ ✳ 企画構成： ① 月例サロン(90 分) - テーマ例： - 団地再生におけるナッシュ均衡とは？ - AI は「最適な設計判断」をどう定義するのか？ - 利害関係者が複数いる公共建築における戦略的合意形成 - 進行形式： - ミニ講義＋グループワーク＋AI シミュレーション体験 - BIM モデルを用いた動的シミュレーション(オプション) ② オンライン拡張版(フォローアップ講座) - 講義資料・AI による設計支援ツールの使い方を解説 - 実際のプロジェクトへの応用事例も紹介 ③ 思考ノート共有・アーカイブ - 参加者の「戦略メモ」や設計思想を共有し、知的資産化 - 安藤忠雄氏の哲学なども引用しながら「思考体系」として蓄積 効果と狙い - 建築士の「設計＝解を探す思考」から「問いを立てて関係者を巻き込む戦略」へと認識転換 - 若手建築士の論理的思考・戦略的対話力の育成 想定予算 講演料3万円 会場費5万円 広報・事務手数料3万円

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	兵庫県建築士会
チーム名	神戸支部青年委員会
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	予算の作成、アイデアの方向性のアドバイス

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名	
ご当地建築フォトコンテストツアー	
事業内容	
普段は見に行くことが難しいご当地の建築作品を選び 1 泊 2 日の建築見学ツアーを実施。 各都道府県建築士会若しくは各支部が主催となり、全国もしくは各単会からの参加者を募集する。 建築作品の魅力を現地で体感するとともに、1 日目の夜には「建築フォトコンテスト」を開催し、 参加者の視点を共有する場を設ける。写真は当日見学した建築を対象とする。 写真とともに建築の美しさを語り合い、建築への理解と交流を深めることを目的とする。 フォトコンテストは会員が参加しやすく、コミュニケーションを深めるきっかけとなる。 対象は建築士会員 20 名程度 各都道府県の集合場所までは自己負担若しくは所属する単会負担 集合場所からの移動は貸し切りバスを想定	
想定予算	
収入:	
会費(15,000 円×20 名)	300,000 円
補助(単会若しくは支部)	250,000 円
合計	550,000 円
支出:	
貸し切りバス(半日×2 日)	200,000 円
車内お茶代(500×20 名)	10,000 円
入館料 1,000×3 施設×20 名	60,000 円
宿泊費(1 泊、朝食付き)12,000 円×20 名	240,000 円
昼食(2 回)1500×20 名	30,000 円
コンテスト景品	10,000 円
合計	550,000 円

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	一般社団法人 鳥取県建築士会
チーム名	鳥取県 1
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	アイデア応募案作成のための会場設営及び提案されたアイデアへの付加・まとめ

事業名
とっとり「新」県民の建物百選
事業内容
・事業概要 とっとり建築探訪県民の建物百選は鳥取県建築士会が 1998 年に出版した書籍です。また、その基となった県民の建物百選は鳥取県建築士会・市町村・県庁各課が推薦し 1996 年に選定されたものです。とっとり「新」県民の建物百選とは、この百選の刷新や新たな活用・普及方法を進める事業です。 ・事業目的と目指すもの 鳥取県内から限なくすばらしい建築物が抽出され、書籍に関しても鳥取県の建築関係者には馴染み深い県民の建物百選ですが、年月を重ね、若い建築士等には目を追って疎遠なものとなっている気がします。 まずは、若い年齢層の会員を中心に百選を改めて訪れ、検証・現状の把握を行い、また、新たに建築されたものも加えながら、現代に合った新たな建物百選をつくりたいと考えています。選定に関わった会員からの講義なども実施し、検証に活かすことが出来ればと思います。そして、本やマップによるこれらの紹介だけでなく、AR 機能や、より現代的な Web を用いた地図や案内の技術を使うことも検討します。県民や他県への建物百選の普及をより推進するとともに、県内の士会員にも地域の資源である歴史的、現代的、それ以外の魅力を持つ建築物を学び知り、深く理解できる機会をつくることができると考えます。 ・対象とする参加者など ・歴史的、現代的、それ以外の魅力を持つ建築物について興味を持つ士会員や学生 ・県民の建物百選選定に関わり、また、選定建築物の説明をおこなうことができる士会員など ・県民の建物百選をより普及させるための現代的な技術を持つ士会員など
想定予算 300,000 円 建物の見学会・講義の開催や広報のための費用 (「新」県民の建物百選の出版も将来的に検討したい)

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	一般社団法人 鳥取県建築士会
チーム名	鳥取県 2
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	アイデア応募案作成のための会場設営及び提案されたアイデアへの付加・まとめ

事業名
鳥取県建築士会発 県内若手建築士会員による空き家・空き店舗再生コンペティションプロジェクト
事業内容
・事業概要 鳥取県の空き家数増加と、建築・建設業従事者の減少は、他の地方都市と同様に県や建築士会が抱える課題の一つとなっています。この双方に対して働きかけることのできる事業として、県内若手建築士会員が空き家・空き店舗の再生を実現可能性のある提案内容で競い、選考された優秀案は施工へとつながっていくコンペティションを鳥取県建築士会主催で実施したいと考えています。 ・事業目的と目指すもの 実際の物件に対してリノベーション提案を行い、若手建築士の実践的なデザイン力の向上と、自身の表現を外部に発信できる場の提供、地域の空き家や空き店舗の有効活用を図ります。また、施工・実装の支援へとつなげていくことで、「調整力・地域への理解力」など若手建築士を育成するととても良い機会となります。 具体的な事業の流れは以下のようなものを想定しています。 ① 県内の空き家・空き店舗を対象とし、建築士会の県内若手会員から提案を募集 (設計は構造・法規・コスト等をふまえた「実現可能性のある内容」を求める) ② 外部有識者やベテラン建築士を交えた審査会を開催 (公開審査や募集期間内に地域住民との意見交換会など、地域とのつながりを重視して実施) ③ 優秀案は地域の協力企業と連携し、施工実現に向けた支援・調整を行う ④ 最終的には「完成見学会」などで広く発信 若手建築士の育成と共に、粗削りではあるものの若いエネルギーにより建築ができることを鳥取県建築士会が支援することで、建築の持つ可能性と、空き家・空き店舗の活用例を地域に発信することができると考えています。他県でも同様に実施されるようになれば、より建築士会としての社会的役割も果たすことができると感じています。 ・対象とする参加者など ・30 歳程度以下の県内若手建築士会員

NO.15

・施工の実現に協力いただける地域の企業や士会員 ・審査に協力いただける士会員
想定予算 1,000,000 円
優秀作品への賞金や審査会開催、広報のための費用 (物件の確保、施工の実現に関しては事業の進め方によるため未算入)

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	一般社団法人 鳥取県建築士会
チーム名	鳥取県 3
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	アイデア応募案作成のための会場設営及び提案されたアイデアへの付加・まとめ

事業名
鳥取県建築士会がおこなう施設再生・リノベーションプロジェクト
事業内容
・事業概要 鳥取県では空き家・空き店舗の増加と共に、公共・民間の文化・教養施設の利用者数の減少も従来からの課題と言えます。少子高齢化や建物の老朽化、求められる施設へのニーズの変化など、要因は様々ではありません。建築士会でこのような施設の一時的な運用や、空き家・空き店舗のリノベーションを実施したいと考えています。 ・事業目的と目指すもの 一時的運用とは、地域の建築に関する展示や建築に関するワークショップなどをおこなうことを想定しています。建築に興味をもってもらうこと、普段とは違う施設の活用方法と可能性を見出してもらうことなど図ることが出来ればと考えています。リノベーションについては、建築士会員のつながり、士会のネットワークを用いて、左官や内装に関するワークショップを地域の子供達を招いて開催したいと考えています。地域の既存建築物を活用しながら、建築の魅力を発信できるととても良い機会と考えます。 具体的な事業の例は以下のようなものを想定しています。 ・入館者数の減少に悩む美術館や博物館・公民館で建築に関する展示やワークショップなどの実施 ・空き家・空き店舗を建築士会員がリノベーション、周辺地域住民もワークショップなどに協力してもらい、完成後は士会員の拠点、地域への開放施設などとする ・対象とする参加者など ・リノベーションに協力いただける士会員や地域の企業 ・空き家・空き店舗の周辺地域住民
想定予算 1000,000 円 ワークショップ開催、リノベーション費用、広報のための費用 (物件の確保に関しては事業の進め方によるため未算入)

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	一般社団法人 鳥取県建築士会
チーム名	鳥取県 4
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	アイデア応募案作成のための会場設営及び提案されたアイデアへの付加・まとめ

事業名
鳥取県建築士会の夏
事業内容
・事業概要 鳥取県にも地域の夏祭り・盆踊りが根強く残っています。規模を縮小しながらでも、夏の夜を地域住民一体となって過ごす祭りの場は残したい日本の夏の風景といえます。本事業ではそのような夏祭り・盆踊りの一端を建築士会で担い、子ども達を中心に、建築の要素を取り入れたワークショップを開催したいと考えています。 ・事業目的と目指すもの 大きなイベントでのワークショップは多数の参加者への対応のため時間の制限もあり、会場も市街地であることが多いため、ゆっくり過ごすことができにくいと感じます。地域の夏祭り・盆踊りであれば徒歩などで気軽に出かけることができ、同じコミュニティ内の知り合いの方もおり、安心して長い時間滞在できます。希薄化が進む地域の多世代交流も可能な夏祭り・盆踊りの環境で、子ども達を主な対象としたワークショップをおこなうことは地域の共生力を高める良い機会ともなり、建築に興味を持つ子ども達も増えるかもしれません。地方であるからこそその小さな夏祭り・盆踊りを、鳥取県建築士会の夏の風物詩となる事業にもできればと思います。 具体的なワークショップは以下のようなものを想定しています。 ・マシュマロ・チャレンジ(パスタとマシュマロを使用したタワー作り) ・木材や木材ブロックなどを使った建築物やオブジェの制作 (祭りのクライマックスに上記を燃やすなども) ・夏祭り・盆踊りの雰囲気合った、子ども達が楽しめるワークショップ ・対象とする参加者など ・ワークショップに協力いただける士会員 ・周辺地域住民
想定予算 100,000 円
ワークショップ開催、広報のための費用

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	一般社団法人 岡山県建築士会
チーム名	チーム オレオ
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
建築士による自邸・代表作品見学
事業内容
■ 趣旨・目的 建築士会に所属する会員が、自ら設計・居住している「自邸」や、特に思い入れのある「代表作品」を会員同士で見学・共有することで、実際の空間を体感しながら設計意図や工夫、施工時の対応、使用後の所感などを深く学び合う機会とします。 建築家の「自邸」は一般公開の機会が少なく、その人の思考や設計哲学、さらには生き方までもが反映された空間です。そうした住まいに触れることは、図面や写真では得られない“建築の本質”を感じる貴重な経験となります。 ■ 企画の特徴 ・ 会員限定の学びと交流の場として、実務に即した技術・経験を共有 ・ 自邸がない会員も参加可能:「代表作品」を紹介することで、広く発表の機会を提供 ・ 図面・スケッチ・写真等を活用し、設計・施工・暮らしのリアルな情報を共有 ・ 県をまたいだ交流により、支部や地域を越えたつながりと刺激を得る ■ 開催概要(案) ・ 年1～2回程度、継続的に実施 ・ 開催地は発表者の所在地に応じて設定し、近隣県との連携も歓迎 ・ 発表者は立候補または推薦により選定 ・ 撮影・情報発信については、発表者の同意のもとで行う ■ 期待される効果 ・ 建築士同士の事例ベースの知見共有と技術的向上 ・ 空間を通じた設計思想・価値観の共有 ・ 若手建築士の学びと育成 ・ 支部・県を越えた横のつながりの形成 ・ 建築士会の活動価値と魅力の向上
想定予算
15000 円/回

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	一般社団法人 岡山県建築士会
チーム名	チーム東備
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
Re:Home Satellite(リホームサテライト)
事業内容
1. 目的・背景 日本では人口減少が進行しており、とりわけ地方部においては若年層の都市部流出に起因する住宅の空き家化が顕著になっている。相続問題により適切な管理がなされず、放置される事例も多い。加えて、地方における立地条件や交通インフラの制約により、空き家の流通が困難な状況が続いている。これらの課題解決を目指し、若手建築士が一棟空き家を取得し、自ら設計・施工を行うことで、空き家リノベーションの価値向上、建築士会員の増強、地域社会への貢献、さらに士会員のためのサテライトオフィスの創出を目的としている。 2. 主な対象者 若手建築士、空き家に興味を持っている人、建築学生、地域住民、自治体 3 事業目的と内容 建築士会会員のメリット向上を目的とし、地域課題に建築士がどのように貢献できるかについて検討した。その一環として、非アクティブ会員が入会後にも価値を感じられる仕組みづくりを念頭に、「建築士による建築士のための一般向け最大広告」という指針を設定し、「サテライトオフィスとショールームの機能を兼ね備えたコンパクトかつ効率的な拠点整備」の方針に至った。 まず、生活環境ごとに危険空き家等を調査・抽出し、物件所有者の協力あるいは既存売買物件を有志で取得(他県での実績あり)。所有名義は単数または複数可とし、数年後には本会へ譲渡することを基本とする。その後、各委員会・部会が長期的にワークショップ等を開催し、一般参加者や学生への教育・啓発の場として活用する。最終的にはサテライトオフィスとして運用・管理し、建築士会会員に対して詳細説明を行うとともに、ショールームとして会員・一般・学生に公開し、活動認知の拡大および商材としての活用を目指すものである。 4. 実施方法・体制 建築士会を主催とし、SNS やクラウドファンディングを活用する。学生会員、地域住民や空き家リノベに興味を持っている方に向けた施工(リノベ)体験を行う。自治体、建築業者と連携もする。
想定予算
物件購入費+材料費等 1000万

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	公益社団法人 岡山県建築士会		
チーム名	ねと和解せよ		
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	氏名	所属士会会員番号	入会年月

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名	建築志のつどい
事業内容	建築士会の会員増強に向けた交流の場の提案



○経緯

建築士会の会員増強を目的とし、「建築志のつどい」を提案する。この提案に至った背景として、建築士会へ参加するきっかけを考える。建築士会へ入会するきっかけとして一番大きいものは「知人からの紹介」ではないだろうか。

実際、建築士会の魅力発信として SNS やイベントを運営する事例は多くあるが、そこから入会する人はごくわずかだと感じる。また、建築学生が団体を立ち上げる際にも、その大半は顔見知りのメンバーで構成されており、同じように知人の紹介で参加した学生が多いことが見受けられる。私達自身も誰一人知り合いのいない団体、イベントに参加するには勇気がある。それは学生にとってはなおさらではないか。このような背景から、会員増強には「顔見知り・知り合いを増やす」ということが大事なのではないか。そこで建築業界に従事する人や建築士を志す学生がつどい、「顔見知りを増やす」ための場を提案する。

○対象者

建築業界に従事する人
建築を志す学生

○具体的な活動内容

参加者は入場時に「建築学生です。建築士の方とお話したいです。」などと記載した名札を作成し、互いにその名札を見ながら交流を図る。自分から話しかけに行くハードルが下がり、かつ会話の流れをつかみやすくなるため、特に学生にとって参加しやすい環境ではないか。気軽な参加を促すため、小規模でかつ定期的な開催を目指す。

○展望

こういった場で社会人・学生含め気軽なコミュニティをつくることで、建築士会への気軽な参加に繋がるのではないか。また、社会人同士、学生同士の意見交換の場を設けることでより建築業界の発展や、豊かなまちづくりにも寄与すると考える。

想定予算：200,000 程度

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	一般社団法人 山口県建築士会
チーム名	若手建築士かき集め隊
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	応募に係る相談

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名	建築・建築士の魅力を学ぼう
事業内容	【目的】 建築士を目指す若者の母数を増やし、将来的に建築士会に多くの方が入会してもらうことを目的とする 【対象者】 ・全国の中学生・高校生（現実的な将来の夢が決まってくる頃） ・建築士会のメンバー（BIM 経験者） 【事業案】 ① 建築士会のメンバーが地元の中学校・高等学校で建築に関する講義を行う ② その後、中学生・高校生に自分の理想の家や学校などを自由に簡単な平面図として書いてもらう（構造・法律などは考慮しない） ③ 建築士会メンバーが BIM でその図面を 3D にする（VR で見てもらうと盛り上がる） ④ 中学生・高校生は自分で考えた家や学校が形になることで、建築の楽しさを学ぶことができる（建築や建築士の魅力に気づく → 将来建築士になりたい！建築にかかわる仕事がしたい！） ⑤ 建築士会メンバーは、中高生の斬新なアイデアで新たな学び・刺激を得るとともに、学校を設計する際の現場の生の意見として取り入れることが可能（Win-Win） 想定予算 ・交通費＋BIM 導入費

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	(一社)山口県建築士会
チーム名	LocoDeza(ロコデザ)
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	応募に係る相談

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
ブロック若手会員作品賞の創設
事業内容
【目的】 建築、設計の仕事は楽しくてやりがいがあります。 しかし、「誰かに見てもらう機会」「目標になる場」があると、もっと楽しくなると思いませんか？ 全国的な建築コンテストはたくさんありますが、有名な賞はどうしてもハードルが高く、私のような若手には遠い存在に感じる場合があります。 (連合会の作品賞なども、なかなか気軽には挑戦できません) そこで、「若手が少し手を伸ばせば応募できる、身近な作品賞」があったらいいなと考えています。 建築士会の枠組みで考えれば全国規模ではなく、ブロック単位でのコンテストなら、「まずは挑戦してみよう！」というきっかけになるのではと考え、若手会員が目標にできる入門コンテストの創設を目指します。 【事業案】 (名称):建築士会ブロック若手会員作品賞(〇〇ブロック) (対象区域):各ブロック内 (対象建物作品)(連合会建築作品賞に同じ) 1 新築の建物 1-1 居住・生活空間系の建物 1-2 教育・文化・医療・福祉系の建物 1-3 商業・業務・交通系・宿泊・その他の建物 2 リノベーションによる建物 (対象者):応募に係る建物の筆頭設計者が正会員であること。また、その建物の竣工時に40歳以下であること。(山口県建築士会では青年部を45歳以下としているため、各県の青年部所属でも良いかもしれません) (表彰):ブロック毎の大会にて表彰する(中四国の場合は、青年・女性建築士の集い中四国大会、または中四国若手建築志(士)交流会など) カテゴリー毎に優秀賞1点、優秀賞の中から大賞を1点選考する。 各賞に賞状を送り、賞金は、大賞10万円、大賞以外の優秀賞に5万円

【期待される効果】

若手建築士のモチベーション向上と目標を創造する。

建築士個人や事務所にとっての実績となり、地域におけるブランディングや信頼の構築。

建築士会活動の可視化と活性化

【展望】

建築士会未入会の若手が、コンテスト応募をきっかけに会員となることを目指す

受賞作品をアプリなどの「建築マップ」として蓄積し、全ブロックで共有

想定予算

・賞金(計 25 万円)+選考委員の旅費、日当、謝礼+雑費(表彰状等)

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	(公社)徳島県建築士会
チーム名	とくしま未来建築団
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	男女参画委員会から全面的サポート。各会社のフライヤー収集や資料の準備等に加え、人員不足の場合のお手伝いなど。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
とくしま住まいサポート
事業内容
【建築士による無料相談プロジェクト】～地域に開かれた相談の場と建築士会活動の周知～ 本プロジェクトは、若手建築士を中心に、地域イベント「徳島マルシェ」へ無料相談ブースを出展することで、地域貢献と建築士会の活動認知向上、そして会員同士の交流を促進することを目的としています。地域の皆さまが生活の中で抱える住まいに関する疑問や悩みを気軽に相談できる場所を提供しながら、建築士の専門性を生かし、安心・信頼のあるアドバイスを届けることを目指します。 相談内容によっては、助成金制度の紹介や現地確認の希望など、さらに具体的な支援や案件へと発展する可能性もあり、相談者・建築士双方にとってメリットのある仕組みです。特に、建築士会のメンバーには多様な専門分野を持つ建築士が在籍しており、信頼できる人材を紹介することによって、安心して依頼につなげる体制が整っています。 運営体制は月1回開催されるマルシェの出展にあわせ、2名程度で当番制を想定しています。参加メンバーの負担を軽減するため、午前・午後で交代制とするなど柔軟なスケジュール管理を検討し、出展のたびに異なる会員が関わることで、自然な形で交流と連携が生まれる点も本プロジェクトの魅力です。会員間の関係性が深まることで、建築士会としての一体感や活動への関心も高まり、若手会員の定着や新規入会の促進にもつながることが期待されます。 ただし、継続的な活動とするには課題もあります。例えば、当番制による時間的な負担や、出展にかかる費用、周知不足による集客の低迷などが挙げられます。これらの課題に対応するためには、告知・広報活動の強化や、相談事例の集積と共有、柔軟な参加制度の設計など、運営体制の工夫が求められます。 建築士会が地域社会に開かれた存在となることで、住民の信頼を得るとともに、建築士自身にとっても活動の幅とつながりを広げる機会が得られます。本プロジェクトは、建築士という専門性を地域に還元し、世代を超えて共感と実践の連鎖を生み出すきっかけとして、大きな意義を持っています。
想定予算 企業及び団体1パラルン外 50,000 円+出店登録料初回 10,000 円+ テーブル外料(1台/1日)1,100 円+イス外料(1脚1日)300 円×2=61,700 円

新入会員による<建築士会で取り組みたい事業>アイデア

応募様式

所属士会名	公益社団法人 徳島県建築士会
チーム名	秘密の会員ショー
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	建築士会に入会してから参加し始めるまでの最初の1回目が難しかったことや新入会意を誘うのに苦労したことなど体験を聞きました

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名	そうだったのか～ 建築士会
事業内容	1. 提案の目的 本提案は、当団体に所属していながら活動への参加が少ない会員や、今後入会の可能性がある候補者に向けた情報発信を強化することにより、参加意欲の向上と新たなつながりの創出を目的としています。会員外への情報発信は講習会や講演会の案内が多いと思うので特に、親しみやすい活動(レクリエーション等)をきっかけとして、団体の理念・活動への理解を深めていただく導線を構築します。 2. 提案の背景 建築士会では、定期的にレクリエーションや講演会など多様な取り組みを行っていますが、会員全体の参加率には差があり、特に新規入会者や非アクティブ会員の参加が伸び悩んでいます。また、外部への発信が限定的で、参加していない会員に向けた団体の「見える化」が十分ではありません。そこで、参加のハードルを下げ、興味と共感を引き起こす情報発信が求められています。 (1) SNS を活用した広報戦略 - Instagram・X(旧 Twitter)・LINE 公式アカウントを活用し、 - レクリエーションの楽しさ・温かさ - 活動の舞台裏や会員の声 - 講習会の様子 など 多様な活動内容をバランスよく発信 (2) 既存レクリエーションの魅力紹介(“きっかけ”としての活用) - 現在行っているレク(例:阿波踊り、研修旅行、ラフティング、BBQ など)を「気軽に参加できる接点」として紹介 - 活動報告を写真やエピソードを添えて発信し、「安心感」「楽しさ」「人のつながり」を印象付ける - 目的はあくまで「団体の存在を知ってもらい、関わる第一歩」にしてもらうこと (3) オープンイベントの開催 - 会員外・非アクティブ会員も参加しやすい、気軽なイベントを開催 - 例:オープンデー、見学交流会、体験型ワークショップなど - 参加後には団体の理念や活動を紹介する時間・資料も設ける (4) 既存会員への説明と合意形成 - 「楽しさ中心の発信」への誤解を防ぐため、 - 広報の方針や目的を既存会員へ丁寧に説明 - 会報や定例会などで意見交換の場を設け、信頼関係を保つ 4. 発信対象 - 非アクティブ会員:

活動から距離がある会員に「もう一度関わりたい」と思ってもらえる情報発信

- 新規会員候補者:

団体の魅力を“外からでも分かる形”で発信し、安心して参加できるきっかけをつくる

5. 期待される効果

- 既存会員の再参加率アップ → 団体活動の活性化

- 新規会員の獲得 → 組織基盤の安定

- 会員間の交流増加 → 離脱率の低下

- 団体の認知度・信頼感向上

6. おわりに

レクリエーション活動を「単なる娯楽」として扱うのではなく、“つながりの入口”として戦略的に位置づけ、団体の多様な活動への理解・関心を広げていくことを目指します。

想定予算

オープンイベントの会場費 50,000 円 活動紹介展示 10×15,000 円 計 200,000 円

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	公益社団法人 徳島県建築士会
チーム名	風景観察会チーム
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年部でWSを行い、その運営等

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名	フィールド・クラフト
事業内容	
概要 「まち歩き」と「山歩き」を開催し、建築士会会員と一般参加者がともに地域を“観察する”プログラム。 都市中心部のまちと、自然豊かな山、それぞれの風景・構造・素材・匂い・音などを全身で感じながら歩き、最後には拾った素材などをもとに「つくる」機会へとつなげていきます。 都市と自然、人工と自然物、日常と非日常を並列に体験することで、参加者同士の交流と新たな気づきを促します。 ターゲット 建築士会会員(建築・まちづくりに関わる専門職) 一般参加者(建築・自然・クラフトに関心のある市民や学生) 目的 ・日常業務から離れてリフレッシュする時間を提供 ・都市と自然の対比から新しい視点や感性を得る ・建築士会の活動を地域に開き、交流の場とする ・手を動かすことで“観察の記憶”をかたちに残す 企画構成(2部構成+作品制作) 【第1回:まち歩き 建築と風景の観察】 場所: 中心市街地(例:徳島駅周辺、新町川沿いなど) 内容: ・建築士によるまちの見どころ解説 ・参加者によるスケッチ、撮影、記録 ・都市素材(石、コンクリ、金属、音、光、においなど)に注目 ・気になる断片を拾う or 写真やスケッチで持ち帰る 【第2回:山歩き 自然と林業のフィールド観察】 場所: 山間地域(例:神山町、那賀町、三好市など) 内容:	

- ・林業関係者やガイドとともに散策
- ・地形・植生・素材の観察(枝・葉・樹皮・石など)
- ・林道・人工林・沢・空間スケールの体感
- ・素材の収集(手に取れるもの)

【第3回:観察から制作へ | アート or モデルの制作会】

場所: 地元の公共施設や建築士会の会議室など

内容:

- ・まちと山で得た素材・情報・記憶をもとに制作
- ・造形(ミニチュア模型・コラージュ・アッサンブラージュなど)
- ・制作しながら自由に語り合う

最後に作品と気づきを共有

特徴・工夫

- ・単なる自然体験や歴史解説に留まらず、「つくる」ことで観察体験が定着
- ・一般参加者の感性と建築士の視点が交差することで、意外な視点が生まれる
- ・会員と市民とのゆるやかなつながりを育む、敷居の低い参加型事業
- ・展示会や報告会につなげることで、成果の見える化も可能

想定予算	150,000 円(50,000 円×3 回)
------	-------------------------

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	公益社団法人 徳島県建築士会
チーム名	位高バイク BKB.
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年委員会にて話し合い。若手を巻き込めるような仕組みを考えた。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
空き家リノベ塾 × 実践プロジェクト
事業内容
1. 目的・背景 空き家の増加が社会課題となる中、建築士として地域に貢献する新しいかたちとして、実際の空き家を教材とした「実践型のリノベーション学習機会」を設ける。若手建築士の技術向上と、地域とのつながりを育むことを目的とする。 2. 主な対象者 ・ 若手建築士 ・ 空き家所有者(個人・自治体) ・ 建築学生・地域住民・地元工務店 3. 事業内容 フェーズ 内容 期間 座学編 空き家活用・補助金・リノベ手法などの講義 1ヶ月 実践編 空き家現地調査～リノベ設計・簡易施工まで 2～3ヶ月 成果報告 住民・関係者への発表／小規模展示など 1ヶ月 4. 実施方法・体制(案) ・ 建築士会主催／地元自治体・施工業者・地域団体と連携 ・ 参加費:無料または教材費のみ(※補助金活用検討) ・ 開催地域:モデル地区 1～2ヶ所から開始 5. 効果・展開性 ・ 若手の実践力・提案力向上 ・ 空き家活用の成功事例を地域に創出 ・ 建築士会が「地域の相談窓口」として認知向上 ・ 将来的には他地域・自治体との共同展開も視野
想定予算
建築士会青年部のぼりの製作5万+運営費用5万円=10万円

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	公益社団法人 徳島県建築士会
チーム名	てでもの部
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年部でWSを行い、その運営等

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名	大工の学校・DIY 中級編
事業内容	
概要 限られた道具と「今そこにあるもの」を使って、参加者が手を動かしながらつくるワークショップ型事業です。プロの大工や建築士がサポート役として関わり、「技術」や「見立て」の楽しさを共有します。 テーマは毎回変わり、家具、什器、小屋、屋台などさまざまな“場”や“用途”を想定して製作。空き家改修や地域資源活用への応用も視野に入れながら、「つくる」を通じて人と知識が交わる場を目指します。 ターゲット ・DIYに興味のある一般参加者（初心者～中級者） ・手を動かすのが好きな学生・建築関係者 ・地域の素材を活かした活動に関心のある市民 ・建築士会会員（技術提供・地域貢献・若手指導の機会として） 目的 ・限られた資源や道具で工夫してつくる“創造力と技術”を体験 ・大工の知識を可視化・共有することで、次世代や一般へ技術を開く ・作業を通じて、参加者同士の緩やかな関係性を育む ・つくったものが地域の空間に関わる“布石”になる プログラム例(1 日型) 【STEP 1 観察&設計】 素材と道具を観察・触る 「何ができるか？」をグループで考え、即席スケッチや模型 制作物の例: スツール、縁台、屋台、移動ベンチ、棚、簡易間仕切り etc. 【STEP 2 加工&組立て】 インパクト、鋸、鉋など基本的な道具講習 加工スタート(組手の工夫、釘打ち、固定方法の応用など) 大工による「こだわりの技術紹介」コーナーも用意 【STEP 3 発表&設置】 完成したものを共有、使い方や応用方法を紹介	

NO.27

作品の一部を空き家や公共施設に設置する回も可(まちとの接点)

最後に感想交換&記録写真の撮影

想定予算

120,000 円

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	(公社)徳島県建築士会
チーム名	建築士会トラベルとくしま
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年部でWSを行い、その運営等

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
建築士会トラベル
事業内容
【事業内容】 建築士会にはニッチな建築を知る人・旅している人がおり、日本や世界にはまだまだ知らない建築や見たことのない建築が数多くある。 そのようなニッチな建築ツアーを、建築好き・旅好きの会員で年に一度程度、企画・実施する。 建築士会のネットワークを活かして企画できることや、個人では入館できないところへの見学が可能となることも団体で計画する強みであり、テーマを絞ってツアーを組むのも面白そうである。 【背景】 以前は免許交付式を通じて新入会員や入会候補者と直接会える機会があったが、コロナ以降、交付式が中止となり接点を持てる機会が減少している。 新入会員の声:「入会したが、建築士会がどのような活動をしているかが分かりづらく、参加しにくい」 既存会員の声:「新入会員が入会してくれているが、会ったことがないため声掛けがづらい」 活動への参加のハードルの高さ、活動への参加者の固定化など、双方にとって課題がある。 一方で、建築見学会や旅行等のイベントは参加率が高い印象であり、他活動へは顔を出していない方とも出会うことが多くあるため、関心の高いことへは一人でも参加することが伺える。 【目的】 新入会員・既存会員に共通する「純粋に建築を楽しむ」ことにより、新入会員自身の意思での参加を図り、互いが「顔見知り」になるきっかけをつくることを目的とする。 また、建築士会へ入会していない建築士や建築関係者、学生も広く受け付けることにより、新しい会員の入会促進に繋げる。 【望む成果】 新入会員にとっては建築士会活動への入口となり、既存会員にとっては一緒に活動する仲間が増え、既存活動が継続的に進んでいくことも期待できる。
想定予算
・企画・運営費:3万円 ・ツアー代金(交通費、宿泊費等):ツアー先及び滞在日数によって変動

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	愛媛県建築士会
チーム名	
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
知りたい、学びたいを体験する事業
事業内容
建築士会新入会者＋予備軍※との合同研修を年間通して定期的に行うことで、入会後のメリットを体験する。(2～3ヶ月に1回程度) ※予備軍:学生、資格受験生 〈年間企画例〉 ① 建築士会の活動を知ろう : 学びたいことをヒアリング→今年度、次年度企画へ活かす ② 身近な文化財を見る、知る(専門の方からの解説を聞く) ③ 伝建地区指定までの苦労、働きを知る ④ リノベーションやコンバージョンの事例を学ぶ ⑤ 伝統工法を宮大工さんなどから学ぶ ⑥ 最近技術を学ぶ ⑦ ④を活かした町づくりを学ぶ、見学をする。
想定予算
講師料＋会場費＋旅費等補助

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	愛媛県建築士会
チーム名	
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	永井由起（女性委員会委員長）事業内容の補足

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
建て替えなどで解体される家の記録と記憶を保存する事業
事業内容
解体される家の記録として、図面は平面図・立面図を必須とし、必要に応じて配置図・小屋伏図を記録する。また、竣工時期・増改築年数等を聞き取り、もしくは登記簿・建築確認概要書等で調査する。家の記憶として、それまでの増改築の記録、過去に遡って住まいとして利用した人達を調査する。また現在の建物の写真の他に建築当時の写真も準備し、記録・記憶と共に A3 用紙1～2 枚程のレポートとしてまとめ所有者に提出し、建築士会でも保存する。更に所有者の許可が取れた場合は、一般もしくは会員限定で公開できるようにする。 通常、家が解体される理由としては建て替えの場合が多い。この場合、新築の家の計画には設計事務所・工務店・ハウスメーカー等の設計士が担当しているが、解体する家の記録を正確に作成する時間的余裕はない。そのため、築 100 年程の民家であっても記録がないまま解体されるケースがある。これらの解体が進むと、自分達が住む町の歴史ある民家を目にしたり、調査したりすることができなくなる。 これらの建物の調査を、建て替えの計画を受けた設計事務所や工務店、ハウスメーカーに代わり、建築士会が引き受ける事業である。築年数が 20 年程度の家でも依頼があれば受け入れる。 実際には築 100 年の民家は稀で、古くとも昭和 40 年代である。それでも現代ではない時代の家の調査を経験できる。家の間取りや仕様から時代背景を検証し、自分が住んでいる町の家の歴史を知ることができる。そして地域の住宅の歴史を建築士会で記録として残す。記録を残すことは建築的意義だけでなく、家の所有者にとってもそこに住んでいた思い出の記録になるはずである。
想定予算
調査にかかる費用の実費（現地までの交通費、役所での資料請求費、写真や映像などの記録にかかる費用） 専門業者に依頼する必要がある場合はその費用 等

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	鳥栖地区建築士会
チーム名	チーム泰元
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年部委員会定例での提案に対する助言

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
スキマハッキングプロジェクト -未利用空間の有効活用によるにぎわい創出-
事業内容
まちの中に存在する普段使われていない場所や空間(スキマ)を探して、<u>建築的手法でハッキング</u>することで、<u>もっと市民に使えるものにする</u>。その過程で一般の方も参加(建築士の体験)できる取組とし、使用する材料は主に建設現場で出た廃材を利用することで環境への負荷低減に資する。 例えば ・駅前広場 → キオスクやベンチを設置してカフェ・休憩スペースにする ・人通りの少ない路地 → 外壁を利用したタープを張って雨やどりストリートをつくり、マルシェを開催 ・休業日で使用されていない駐車場 → 障害物やスケートランプを設置してスケートパークにする ・放置された空家 → 改修して地域の寄合所にする
事業の流れ
1.まちのスキマを探す (全員) 例) 未利用地・駐車場・空家等 ▶ 2.準備 (自治体・全員) 例) 必要となる届出・許認可 地権者交渉等 ▶ 3.計画・施工 活性化のツールづくり (設計事務所・施工会社) 例) テーブル・ベンチ・ キオスク・ステージ等 ▶ 4.ハッキングを仕掛ける (全員) 例) ツールの設置・改修等
建築士会で取り組むことの意義
一般の方を巻き込むことで建築士の職能に対する理解を深めること・社会における建築士のプレゼンス向上
将来の構想
1. まずは小さなスケールから始めて、いずれ <u>まち全体に波及</u> することを目指す 2. 全国のハッキングデータを収集しながら、 <u>各地でにぎわい創出</u> を企む
想定予算
10万円～50万円(ハッキング対象・規模によって変動)

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	大分県建築士会
チーム名	大分支部青年部まちづくり班 モダニズム建築研究会
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	新規入会者間の交流会の開催

事業名	大分県内のモダニズム建築の3D データアーカイブと建築マッピングウェブサイトの構築・運営
事業内容	大分県内に点在する、磯崎新氏、清家清氏、槇文彦氏らの作品に代表される貴重なモダニズム建築群を、最新のデジタル技術を用いて記録・保存し、その文化的価値を国内外に発信するための「大分県モダニズム建築 3D アーカイブ＆マッピングウェブサイト」の構築と運営を提案します。 本プロジェクトは、文化的遺産の保護、教育、観光振興、地域ブランディングそして建築士の設計活動の参考資料として貢献することを目的とします。 【プロジェクトの概要】 ウェブサイトは主に以下の二つの要素で構成されます。 3D 建築アーカイブ: 主要なモダニズム建築を 3D レーザースキャナーやフォトグラメトリ(写真測量)技術を用いて高精細にデジタル化。ウェブ上で寸法計測、高精細なテクスチャの確認ができるものとします。 建築マッピング: 大分県内のモダニズム建築を地図上にプロットし、それぞれの建築物の基本情報(設計者、竣工年、歴史的背景、建築的特徴など)や 3D モデル、写真、関連資料へとアクセスできるインタラクティブマップを作成します。 主要対象建築物例:アートプラザ(磯崎新)、朝倉文夫記念館(清家清)、風の丘葬祭場(槇文彦)等 運営・収益化モデル: 一般公開(無料): 建築マップ、各建築の概要、低解像度の 3D モデルや写真など、基本的なコンテンツは誰でも無料で閲覧可能とします。 専門家向け会員制度(有料): 対象: 建築士、設計事務所、研究者、学生など。高精細 3D モデル、CAD データ(可能な場合)、詳細な図面等専門的なデータへのアクセス権を付与します。 料金体系:大分県建築士会会員: 連携パートナーとして、会員は無料で全てのコンテンツにアクセスできる特典を提供します。その他(一般会員): 月額または年額の利用料を設定します。 参考事例: おおいたモダニズム建築研究会のウェブサイト(基盤となる活動)(大分県建築士会) 磨崖仏を訪ねる(大分県)、大牟田市役所本庁舎点群データ化(福岡県大牟田建築士会): 京都国立博物館 明治古都館 VR 化(京都府)
想定予算	1,000 万円(サイト作成費、初回建築物追加費(概算)) 運営費、建築物追加費別途

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	沖縄県建築士会
チーム名	IIKA(いいか)チーム
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	グループワークの際に議論の補助を行った。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
支部対抗で行うスポーツ大会・クイズ大会
事業内容
各県の各支部対抗で行うスポーツ大会、クイズ大会を企画します。 会員に一番身近な存在なのは、各支部活動かと思います。 支部活動が盛り上がることで会員増強などへ繋がると思います。 具体的には、 運動会のようなイベントをイメージしており、出来るだけ多数で年齢、性別関係なく参加できるようなものが出来ると良いなと思います。 また、運動系だけだと中々参加しづらい方もいらっしゃるかもしれないので 建築にまつわるクイズ大会なども出来たら面白いかと思い提案いたしました。
想定予算
50万円程度※規模による

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	沖縄県建築士会
チーム名	チーム K
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	ワークショップを開催していただき積極的に意見を発することができる機会をもらった

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
教育現場とのコラボレーションと地域交流
事業内容
私は現会員の退会を減少させると同時に、将来の建築業界を担う人材を確保したいと考えた。そこでまず初めに考えたのが「教育現場とのコラボレーション」である。例えば各支部の存する地域の学校(小・中・高)に講師として出向き、PBL(プロジェクト型学習)を利用して生徒たちに課題解決の案を提案してもらう。課題例としては ・参加したくなる建築イベントを考えよう ・建築業界の人材不足を解消する方法を考えよう ・建築士会の会員を増やすにはどうすれば良いかを考えよう ・建築士会の会員の退会を防ぐにはどうすれば良いかを考えよう 課題解決の方法を考えてもらうことで建築業界に興味を持つキッカケをつくることができるうえに、実際に建築士会の課題解決の一助となることが期待できる。 また、建築士会内のみではなく地域に広く参加希望者を募り、その地域の建築物や歴史的建築物、伝統集落などを巡る街歩きツアーを開催する。参加者が自分たちの暮らす地域の建築物に関する認識を深めることで建築に対する興味関心を高め、建築業界を志す原体験となることを目標とする。また同時に、参加者を案内する現会員も地域住民との交流を通して建築の意義の再認識や地域から必要な存在であるという意識造りの一環となることを期待する。 また、街歩き以外に地域交流を図ることができるイベント案として、年に1回デザインコンペを開催し、現会員のサポート(チームを組んでも良い)を受けてTシャツ、椅子などの家具のデザインをしてもらう。グランドゴルフ大会、囲碁将棋クラブなどのレクリエーションでの交流などの意見も出た。
想定予算
¥100,000

新入会員による＜建築士会で取り組みたい事業＞アイデア

応募様式

所属士会名	沖縄建築士会
チーム名	チーム GRIT
士会青年・女性委員からのサポート内容※2	青年・女性委員からワークショップを開いてもらった。スムーズにできました。

※1:共同応募者が3名以上の場合は、行を追加してください。

※2:建築士会の青年・女性委員からのサポートがあった場合は、その内容を簡潔に記載してください。

事業名
事業内容 今後建築士会の活動でやりたい事
1)建築と住環境を含めた地域をキーにしたエンターテインメント活動 ○地域の空き家で『おばけ屋敷』+『地域の怪談トーク』: 『空き家』問題を身近な問題にする。地域に伝わる怖い話で地域の歴史の一部を掘り起こし、共通体験を得る機会を設ける ○地域の植(食)生を学ぶ: 地域に伝えられてきた伝統(食文化)を再発見する。 ○ドッグランイベント(ヤギ・猫)による地域清掃活動: 地域を巻き込み、遊休地(空地)を手入れするイベント。 ○地域マーケットの創出: 地域で活動する生産者や小売店を巻き込んで公民館などでマーケットを開催する。 ○子どもたちの創造・創作力のアシスト活動 絵本をつかってその世界感を創作するなど。既活動のバリエーションの展開。 ○映像制作 おこがましいが『名建築で昼食を』のようにストーリーを持つショートドラマを沖縄の名建築で撮りたい。 部活的で 2)に通ずる 2)コーチングやセミナー、勉強会の開催 ○設計事務所は中小規模の会社が多いのが現状。社内や個人での機会は多いとはいえない。建築士会で起業や安定経営などの経営系のセミナー、やり抜くメンタル力のコーチング、建築以外のビジネスセミナーを企画する。またメーカー主導もいいのだが、建築士会の中に自主勉強会の仲間募集などの告知が出

来たら良いと思う。

3)避難生活

○大規模災害時には罹災を受けることも想定される。その場合、災害救助法に基づき仮設住宅の建設までの間、公立施設で長期間避難生活を強いられるケースも多い。当時、少しでもプライバシーを確保できるようにそして居心地を向上できるようにいろいろなアイデアが提案された。建築士会でも地元の製品を導入するケース1(事前納入型)、他県で制作するケース2(罹災後納入型)の提案はどうだろうか。南海トラフの場合、他県での被害も多く、沖縄に仮設住宅が出来るのが想定以上にずれ込むと予想出来る。その為、上記パーティションなども提案の甲斐があるのではないだろうか。

ちなみに仮設住宅について沖縄県も「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」を締結している(沖縄県と一般社団法人全国木造建設事業協会)。検証しても良いように思う(すでに建築士会が配置計画などで関わっていたらごめんなさい)。

想定予算 1)10万円前後と予想 2)謝礼・会場費<チケット売り上げ

3)リサーチ代で10万前後。その後、モックアップ制作を地元企業・他県企業とタイアップ。